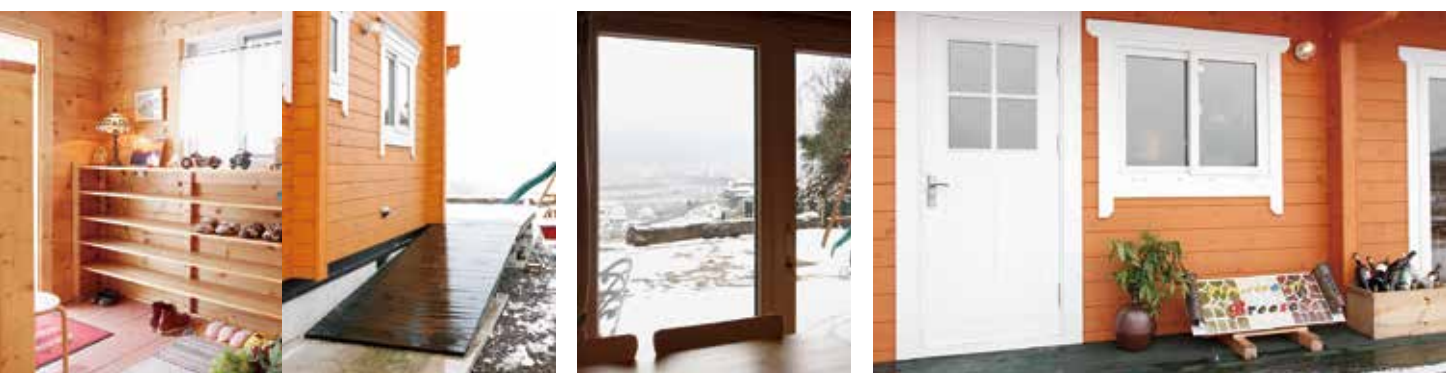




客席はカウンター4つ、テーブル5脚、キャパシティは24人。左奥に見えるのが石窯。



自作の下駄箱(左)と玄関スロープ(右)。大きな掃出しから市内を一望。店舗玄関。デッキはご主人、備前焼の看板はご親戚作。

**一生懸命さが決め手
サエラホームに白羽の矢**

方向性は決まった。次は、ログハウスメーカーを探そう。広島という立地を考えると「サエラホーム」というメーカーがあった。帰省ついでに訪ねてみると社長がいて、脱サラのことを話してみる…。

「資金、店舗とログについてなど熱心なお仕事をされていた。」「50になって、不満はないけれど、転職を図るなら今だと思いました」学生の頃、夢見ていたことがあった。夢中になったバイク。仲間とともに走りに行つては立ち寄り寄る山奥のレストラン。いつもバイク乗りが集つ。いつか、こんな店をやりたい。そんな折、奥様の実家に帰省し、休耕地の草刈りを手伝う。作業中、手を止め、ふと眼下を見やると…。「景色が良かったんです！ロケーションにはまりました」昔の夢が再燃。奥様のご両親に相談すると「夢ならやってみたらいい、応援するよ」と快諾を得られた。それからいろいろと調べ始めた。ネットを見る、展示場に足を運ぶ。それは、漠然とした夢を具体化する作業だった。「展示場でこの石窯をひと目見て気に入ったんです。だから、ピザにしようと思ったんですよ(笑)」ログもそう。ネット上の誰かのスケッチが夢の具現化のヒントとなった。

**市内一望の高台でピザハウス
実現したのは石窯と木の家**



浅野さんは脱サラ後、ピザハウスをオープン

「いつかバイク乗りの集まる店を」思い出したのは、そんな学生時代の夢。実現してくれたのは、石窯と高台のログハウスだった。



市内を一望のピザハウス「Pizzeria & Cafe Breeze」。高台を吹き抜ける「そよ風」から名づけた。

**霧の海を見渡す高台に
木の家のピザハウス**

BRANDI
坂道に見上げたその勇姿に、思わず、声を上げたくなった。森と空をバックに、明るいオレンジ色、交錯する角ログの直線、イタリア国旗を思わせる2階テラスの配色。ほれぼれする立ち姿だ。ここは、広島県三次市。町のランドマーク・巴橋を中心に市全域を見渡す高台に、その建物はあった。三次といえば霧の海。気象条件が合えば、真っ白な「海原」を望むことができる、絶好の立地だ。「お邪魔します」玄関から足を踏み入れ、目に飛び込んで来たのは、カウンターの向こうにデンツァーと居座る、赤いカマクラのようなかわいらしい物体。「これで焼けば、ピザはもちろん、お餅もさつま芋も美味じゃぞや」なんと、これはピザ用の石窯。そう、ここは、美味しいイタリアンが食べられる「Pizzeria & Cafe Breeze」。本物の木の家で、特別な時間が過ごせるところだ。

**学生の頃、夢見ていたことは
バイク乗りの集まる店**

オーナー・浅野さんが、店をオープンしたのが今から1年半前のこと。それ以前、浅野さんは、神戸で介護関係



2F 収納は6カ所も設けた。



浅野さんのお母様手作りの刺繍。



2階ダイニング。右奥がキッチン。



寝室。天井高く開放感がある。



奥様、娘さんと。子供部屋にて。



ダイニングとひと続きのリビング。



お店のトレードマーク「石窯」。これにほれ込んでピザ屋にした。国内メーカー「IGA製」。

Pizzeria & Cafe Breeze

三次市栗屋町 2687-1
050-5535-0834
本格石窯で焼き上げるナポリ Pizza。

- マルゲリータ (左) 1400円 (税込)
- アンチョビときのこ (右) 1300円 (税込)



「行き先は、船に乗って『江田島』。ここが『近く』。(笑)」
この一生懸命さが決め手だった。
メーカーが決まれば、次はプラン作り。間取りは「店ありき」だ。
1Fは厨房、客室、店のトイレ、開放感のある吹き抜け。採算を考えると、キヤバ24人が必要とほしく。
2Fは自宅。1Fに店舗をあてる分

「赤い石窯、おいしいピッツァ」眺めに感動しました。八十年も三次に住んでいるのに」
嬉しくて、宝物にした。
目指しているのは、日本人にあった味。イタリアンだが和風出汁も使う。「やさしい味、癒されます」そんな感想もいただく。
それは、木の家のあり様とどこか通じるものがあるのではないかと。
「住んでみるとあったかい。手で触って、ぬくもりを感じます」
2F自宅はエア「ミン」いらず。冬は店

嬉しくて、宝物にした 高齢の方からの絵はがき

オープンして約1年半、滑り出しは悪くない。三次市内はもとより、島根や福山からも、人づいで、ドライブがてら、足を運んでくれる人がいる。
女性客が多くて9割。「木に囲まれてオシャレ」なんて言うってくれる。
嬉しいのは、高齢のお客様もいること。中には、こんなありがたい絵はがきを送って下さった方もいる。
そして、これも拔かりなく。
「サエは東京のお店で習いました。お礼を払って『研修』というカタチにしてもらっただけです」

サエラホームの ワンポイント アドバイス

サエラホームの自由設計とコラボシステムを存分に活用された施工でした。「自分でできる事は少しでも関わると良い思い出になり、愛着も増します」と、今後建てる方へのエールもいただきました。

キットハウスアイテム RX-K-128 (変)

